大伴宿禰家持、詔に応ふる歌一首

三九二六番

大宮の　内にも外にも　光るまで　降らす白雪
見れど飽かぬかも

大伴宿禰家持、天平十八年閏七月を以て、越中国守に任ぜらる。即ち七月を取りて任所に赴く。ここに姑大伴氏坂上郎女、家持に贈る歌二首

三九二七番

草枕　旅行く君を　幸くあれと　斎瓮すゑつ
我が床の辺に

三九二八番

今のごと　恋しく君が　思ほえば　いかにかもせ
む　するすべのなさ